

●教育スローガン

**咲こう!UEHASU**

～すべては、みんなの「幸せ」と「成長」のために～



2 学校教育目標 「進んで学ぶ 心豊かな たくましい生徒」

3 \*咲こう!UEHASUプロジェクトの3つの咲かせたい「花」

**自分が咲く**

🌸 自ら学びをつくり、行動する生徒

<自分で学びをつくる喜び>

**仲間と咲く**

🌸 互いを認め、支え合い、高め合う生徒

<仲間と支え合う喜び>

**夢に咲く**

🌸 未来に向かって挑戦する生徒

<粘り強く挑戦する喜び>

4 経営方針

**(1) 生徒が咲く学校・・・生徒一人一人を大切に作る学校づくり**

◎魅力ある授業・教育活動【個別最適化・協働化・プロジェクト化・UDL】

生徒が主役となる授業、学校行事、部活動等魅力ある教育活動の展開に努める。  
意欲をもって学習に取り組む「自律した学習者」を育てる。

◎認め合い高め合う集団【交流活動・協働学習・ピアサポート】

生徒が安心して生活できるよう、互いのよさを認め合い高め合う温かな集団づくりや  
生徒同士をつなげるソーシャルボンドの構築に努める。

◎生徒理解・共感的理解に基づく支援【PBIS・アセス・SEL】

教師と生徒の良好な人間関係を基盤に、「生徒エージェンシー」を引き出し、自己肯定感を高めるため、褒める、認める、励ます等、成長支援する。

**(2) 地域が誇れる学校・・・生徒・保護者・地域から信頼される学校づくり**

◎安全・安心な学校

生徒の命、人権、安全を守り通すことが学校に求められる最大の使命であることを自覚し、「事故ゼロ」に努める。

◎保護者・地域との協働・連携【学校運営協議会】

保護者や地域人材との協働や地域資源の活用を通し、地域とともにある学校づくりや教職員、保護者、地域の方と共に育て、共に育つ共育を推進する。

◎教職員の資質向上

「生徒の学びと教師の学びは相似形」という認識のもと専門性や指導力を磨くとともに相手意識を大切にされた接遇力の向上に努める。また、服務規律確保の徹底を図る。

**(3) 教師が咲く学校・・・教職員一人一人が働きやすい職場づくり**

◎認め合い支え合う職員集団

温かなコミュニケーションや積極的な報告・連絡・相談により、風通しのよい職員集団づくりや相互に補い合う良好な人間関係構築に努める。

◎組織的な協働体制

学校経営構想の実現に向け、「教師エージェンシー」を発揮し、組織の一員としての役割を果たすとともに、他の教職員との連携・協働に努める。

◎多忙化解消・時間外勤務削減

生徒と向き合う時間の確保のため、廃止・縮小・ICT化による業務改善やマイナス業務の削減等に努める。

## 「咲こう!UEHASUプロジェクト・3つの咲かせたい花」

### What's UEHASU?

U = Unity (協働性・つながり)  
E = Effort (粘り強さ・努力)  
H = Humanity (思いやり)  
A = Agency (主体性・自ら学ぶ)  
S = Spirit of Challenge (挑戦)  
U = Upgrowth (成長)

### 1 自分が咲く

自ら学びをつくり、行動する生徒 (自ら学ぶ)

### 2 仲間と咲く

互いを認め、支え合い、高め合う生徒 (思いやり)

### 3 夢に咲く

未来に向かって挑戦する生徒 (挑戦)

●「殖蓮」の名には、蓮の根を殖(ふ)やし、美しい花を咲かせようという願いが込められています。蓮の花は、泥中にしっかりと根を張り、静かな水面へと茎を伸ばして、ようやく大輪の花を咲かせます。その美しさは、目に見えない場所でのたゆまぬ準備があってこそ成し遂げられるものです。本校の生徒たちにも、この蓮のように「根」を養い、「茎」を伸ばす充実した日々を送り、生徒一人一人が自分らしい花を咲かせてほしいと願っています。私たち教職員は、生徒一人ひとりが夢や希望を叶えられるよう、全力で伴走してまいります。



## 5 本年度の努力点

### (1) 自分で学びをつくる喜びを味わわせる学校

- 自律した学習者を育てる指導の充実  
各教科等で育む力に対して指導観を明確にもち、生徒が学びを自覚できる振り返りを工夫する。「自己調整力」を育む授業改善と手立ての探究を通し、生徒自身が、自らの学びの質を高め、主体的に学び続けられる生徒をめざす。
- 各教科の特性を生かした「学ぶ楽しさ」を味わわせる工夫  
導入や場面的な活動における「楽しさ」も大切だが、教えるプロとして各教科の特性・本質的な楽しさ(その教科を学ぶ楽しさ)を教師自身が生徒に伝え味わわせる工夫。専門知を生かした授業改善。
- 個に応じた指導の充実  
生徒一人一人に「わかった」「できた」を実感させる指導の工夫。  
熱意ある授業。授業中の生徒指導の充実。個と集団の指導バランスの調整。
- 思考力・判断力・表現力の育成  
ねらいと振り返りのある生徒主体(学び合いと表現活動)の授業。  
校内研修の充実による授業力の向上。
- 課題の提示と学習習慣の定着  
家庭学習を習慣化させるための課題の提示と目的意識を感じさせる工夫。  
生活ノートを活用した学習・生活習慣の確立。保護者との連携の強化。
- ICT機器の効果的な活用  
使うことが目的ではなく、効果的に活用する工夫。校内研修で活用法も共有。

☆そのために・・・人の話をよく聞き、考え、進んで問題を解決する生徒の姿を意識

- ・聞くことが基本。何を伝えよとしているのか。内容を聴き、そして考える。
- ・なぜだろう。どうしてだろう。根拠を明らかにして思考する訓練の積み重ね。
- ・自分の考えを相手に伝えるように書く。話す。聞き上手は話し上手。伝え上手。
- ・ちょっと難しいことができるようになるって楽しい。欲求・意欲・向上心。

(2) 仲間と支え合う喜びを味わわせる学校

- 自分らしさを表現できる場の充実  
「ほめる」「認める」「励ます」支援をすることにより、自分の持てる力を発揮し目標に向けて粘り強く取り組める姿勢を育成する工夫。  
日常の観察や面談、諸調査の結果等をもとに、困難さだけでなく生徒のよさ、可能性を把握し、共有して指導に生かす工夫。
- 「思いやりの心」「感謝の心」「感動する心」の育成  
各教科指導や特別活動、道徳、部活動等教育活動全般で思いやりの心、感謝する心、感動する心等、笑顔と優しさ溢れる心を育む。
- 正しい判断力の育成  
生徒指導部会を中核とした共通理解・共通実践。礼儀・身だしなみ指導の組織的取組。規範意識の高揚。  
毎月の生活アンケートや日常の情報交換によるいじめや不登校の未然防止。
- 居場所のある学校生活  
生徒指導部会・教育相談部会を中核とした課題解決のための組織的取組。  
すずらん教室、P-room等、校内の居場所づくりの工夫・改善と、市のほっとる～むやのつながり等、校外の居場所も有効活用しながらの不登校生徒の解消と学びの担保。
- 安全できれいな学校づくり  
「整理」「整頓」「清潔」「清掃」の徹底。係・委員会活動の活性化により、生徒の主体性を育みながら、状況に応じて自ら判断し行動できる生徒を育成する。

☆そのために・・・あいさつができ、思いやりと感謝の気持ちで協力できる生徒の姿を意識

- ・相手は、あの子は、今どうに考えているんだろう。どんな気持ちなんだろう。
- ・まわりの人のことを考えられる生徒、思いやりのある生徒。
- ・思いを言葉や行動に移せるようになれるよう、小さな思いやりから認めほめる。
- ・みんな良さと弱さがある。お互いの良さに気付き、認め合える集団づくり。
- ・人を笑う人にはなあってほしくない。人と一緒に楽しく笑える人になってほしい。
- ・たった一言が人の心を傷つける たった一言が人の心をあたためる。忘れない。

(3) 粘り強く挑戦する喜びを味わわせる学校

- 行事に意欲的に取り組む生徒の育成  
特別活動と道徳の時間の充実を図り、目的意識を持って行事に主体的に取り組む生徒の育成。歌声の響く学校づくり。各行事を有効な成長場面として捉えた積極的生徒指導。
- 生徒の可能性を広げる教育の充実  
本校の系統立てたキャリア教育。外部や社会人講師の話に生でふれる機会の充実。
- 基本的生活習慣の確立  
あいさつ運動の推進強化。生活ノートを活用した生活の振り返り。家庭との連携。
- 生徒会活動・係活動の充実  
学級活動・生徒会活動等でのリーダー育成。一人一人が参加できる場や内容の工夫。
- 部活動に意欲的に取り組む生徒の育成。  
「技」の前に「心」を鍛える。保護者との密な連携。部活動方針の遵守。地域展開を目指した地域との連携の工夫と強化。
- 地域との協働  
地域の教育力の有効活用  
地域にお願いできるところは、しっかりお願いし、地域の宝を育てていただく。  
公民館事業を含め、地域行事等への主体的で積極的な参画を促す。地域にも活躍の場を。

☆そのために・・・心身を鍛え、最後までやり抜くたくましさのある生徒の姿を意識

- ・大人でも子どもでも、物事が順調にうまくいっている時はご機嫌。気分よし。
- ・できないことがあったり上手いかなかったり、失敗したりしたときに、すねて投げ出すか、今回はうまくいかなかったけれど、次はできるかも。とか別のやり方でやってみよう。など、あきらめずに再チャレンジができる気持ち。
- ・これが、目指すたくましさ。この小さな経験の積み重ねが、今後の人生に重要。
- ・小さな失敗を乗り越え、再チャレンジしていくために、心が笑顔で元気でなくてはならない。自分が笑顔であるためにも、周囲の人を笑顔にできる人になる。
- ・非認知能力は特別な行事だけでなく、日々の様々な活動の積み重ねで培われる。

#### (4) その他

##### 生徒指導面で全員が日々の教育活動を進める上で意識しておいてほしいこと

生徒理解。授業中の顔、授業外の顔、友だちに見せる顔、家庭での顔  
家庭内の様子・状況・育ちの背景 様々な背景のもと、個々が違う存在  
得意なこと、苦手なこと、良さ、強さ、弱さ、足りていない意識。  
その子その子の先の人生のために、機を逃さない適切な指導・助言がしたい。

大切なのは、教職員で共通理解をすること。指導後も必ず共有すること。ご家庭との  
連携が図れるよう、機を逃さない連絡を入れること。指導・助言の必要な生徒に対し  
本人の納得と理解が得られる指導、言葉がけを工夫し、個を詰める指導は行わない。  
根気強く伝えていくことが重要であることも全教職員で共通理解しておきたい。  
電話でも対面でも、最初の言葉のチョイスが重要。どの子にもほめるネタをもてる  
よう、日々の中で子どもの良さを見つけておきましょう。  
組織対応のためにも「ほうれんそうき」 **報告** **連絡** **相談** **記録** が大切です。

学年を問わず、行動に異変があった時には、その子なりの理由や背景がある。指導や支援  
場面において、まずは原因や背景を聴いてあげることから指導を始めましょう。事情を丁寧  
に聴いてもらえるってことは、自分はこの先生から認められと感じる。

心を開き、聞く耳を持っていく。事情に共感してもらった上で、間違っていることはわか  
るように注意・指導してもらえれば、理解し少しずつ変容していく。時間がない中、大変な  
ことであるが、このことは大切。